

いのち

生命をみつめる

思春期ふれあい体験学習・保健講座

■思春期保健事業の必要性と背景

現在、県内において10代から20代の性感染症が増加し、全国と比べても高い率となっております。また、10代の人工妊娠中絶率も全国に比べて高く、10代の人工妊娠中絶のうち、中・高校生が全体の73%を占めています(2004年度)。さらに、県内で県南地区は高い率となっており、関係機関が性教育に力を入れています。

一方、村内の小・中学校からは、「自分の意思をうまく伝えられない」「きれやすい」「軽はずみな言動をする」「なげやりな態度」「自分や他人を大切にできない」といった児童・生徒が年々増えてきているという報告もあり、思春期(ここでいう思春期とは10歳から19歳までをいいます)における保健の取り組みの大切さが浮き

彫りになっていました。

■思春期保健事業(思春期ふれあい体験学習)とその目的

このような背景のもと、それぞれの学校で性に関する授業を行っています。また、平成15年度の小学校統合を契機に、村内の小・中学校を通しての思春期保健事業を計画し、「子どもの健康を守る会(右下参照)の組織を活用して、さらに地域の協力を得て行うことにしました。

事業は、村内の小・中学生が、思春期に変化する自分の心と身体について理解し、生命の大切さや家族、異性との関わり方について考える機会を持ち、自分の心身の健康のために判断し行動できることを目的に、小学6年生から中学3年生までを対象に

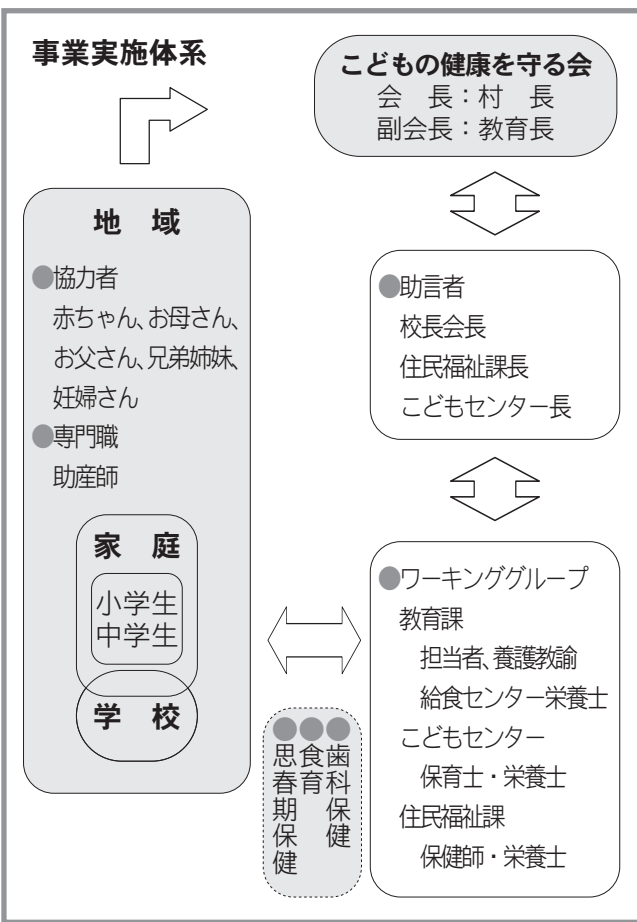
■実際の取り組み

小学校では、6年生を対象に「生命の誕生や発育発達を感じ、自分を大切にしようとする心を育てる」ことをテーマに授業を実施。子育て中のお母さんに直接話を聞いたり、赤ちゃんとふれあいました。

中学校では、1年生から3年生まで、それぞれの学年の発達段階に応じた内容の授業を行っています。1年生は、「生命の誕生」をテーマに、妊婦さんや助産師さんの協力を得て、思春期における身体の仕組みと変化

受精、胎児の成長や出産について学びました。2年生は、「正しい異性理解」をテーマに、「思春期の心」と「思春期に生じるさまざまな不安や悩み」について考え、性被害からの身の守り方や、将来の家庭像をイメージし、家族の理解と協力の大切さを学びました。

3年生は、「性感染症の予防をテーマに、性行動の低年齢化に伴い望まない妊娠や性感染症が増えている現状を知り、助産師さんから医療現場の話を通して「自分を大切にすること」の意味を確認しました。次は、学



行われ、次の4点を柱に取り組んでいます。

- ①正しい性の情報提供ができること。
- ②地域の妊婦さん、乳児およびお母さん、お父さんの協力を得ながら、本物の「ふれあい体験学習」ができること。
- ③小学校から中学校へ学びが継続でき、4年間を通しての実施計画づくりができること。
- ④思春期保健事業に多くの村民、専門職やスタッフが携わることができること。

習に参加した生徒の感想です。

- ・新しい命は、一生懸命に生きようとする赤ちゃんの子の命を守ろうとするお母さん、産婦人科のスタッフのみなさん、そして、家族や周りの方の協力や優しさがあって無事に誕生することがわかりました。(1年生)
- ・今回の学習は、今自分がどうすればいいかわからずもがいている自分を楽しませてくれました。(2年生)
- ・性感染症のおそろしさや現状を知り、これから生きていくうえですごく大切なことだと思いました。(3年生)

■まとめと今後の方向性

思春期ふれあい体験学習は今年で4年目となります。この事業を通して、村内の小・中学生が正しい知識と判断力を身に付け、生命の大切さ、生きていることの素晴らしさを実感してほしいと願っています。

今後はさらに事業を継続し、乳幼児から高校生、保護者、地域へと命をほぐくむ取り組みを広げていく予定です。

■問い合わせ

村住民福祉課健康係
☎29-11231



赤ちゃんとミルクを飲ませる児童(小学6年生)



赤ちゃんの人形を抱っこする生徒(中学1年生)



はがみき さとる
芳賀美紀さん・悟くん
(1歳10か月)
(西山字摺合)

ふれあい体験学習には2回参加しました。最初わかってもらえるかどうか不安でしたが、きちんと理解してくれたので感激しました。特に女の子からの反応があり、自分の子どもたちに教えているような感じで接することができました。今、自殺が話題になっていますが、子どもたちには、どれだけ大変な思いをして親が育てているかということを知ってほしいと思います。悩みがあったら抱え込まずに相談してほしいですね。



郷厚生病院
助産師
郷喜子さん

私は、1年生の「生命誕生」の授業で、受精の仕組みから妊娠成立、胎児の成長・出産についての講義を担当させていただきましたが、私が一番伝えたかったことは、みなさんにはこの世に生まれる前から生きる力があって今があるということでした。命の始まりはとても小さいもので、みんなに見守られ、大切に育てられてきました。2~3億分の1の確率で受精し、大変な苦勞をして生まれてきた命です。自分の命、人の命を大切にしてください。



いしい みき
石井美紀さん
(鯉川中3年)

私は、小学6年から中学3年までの4年間、思春期体験学習をしてきて、たくさん学ぶことができました。学習する前は、自分には関係のないことと思っていましたが、学習するたびに他人事ではなく自分自身のことと考えるようになりました。また、学習を続けるたびに性について素直に受け止められるようになりました。これからは自分を大切に、正しい判断をしていかなければならないと思いました。